



県際保健所会議を開催しました!

6月28日(木)に、「宮城県・岩手県保健所県際合同連絡会議」を開催し、岩手県からは、一関保健所、大船渡保健所、宮城県からは栗原保健所、登米保健所、そして気仙沼保健所が出席し、県際の協力体制等について検討しました。



会議では、大災害での協力体制の課題と対策について話し合い、情報交換として、5月8日から岩手県で運行を開始したドクターヘリと、被災された方々への家庭訪問による健康調査、こころの健康相談事業などについて報告がありました。



リユース、リデュース、リサイクル!

■ 馬籠小学校の児童がRR探検隊に参加!

7月11日(水)、馬籠小学校全学年の児童35名は、ゴミ焼却場(登米市クリーンセンター)や古紙再生工場(一関市上山製紙株式会社)を見学しました。移動中のバス車内では宮城県資源循環推進課職員が「スリーR」や県内のゴミ発生量に関するクイズを出題し、児童達は盛んに手を挙げ発言していました。



みんな、熱心に勉強しました!



『ふかひれさん』
ちんげんさいのリボンがお気に入りです。

盛況でした!地域リハ従事者基礎研修会!!

■ 地域リハビリテーション従事者基礎研修会

7月6日(金)

講師:ふつうのくらし研究所 理学療法士 吉川和徳氏
風の部 14:00～16:00

『ICF概念に基づく生活機能評価と福祉用具のあり方』
～福祉用具サービス計画書の導入を踏まえて～

今年度より介護保険法では福祉用具の導入に際して「福祉用具サービス計画」の策定が義務づけられました。そこで管内のケアマネジャーと福祉用具専門相談員の方を対象に、ICF(国際生活機能分類)の概念を中心に「障害とは?生活機能とは?自立とは?」を考え直し、ケアプランでの多職種協働の必要性を学びました。基本的な考え方を見直すよい機会になったと思います。

夜の部 18:30～20:30

『理学療法士・作業療法士としての Seating とは』

～マット評価に基づく座位姿勢のコントロールと Seating ～



夜の部では管内のリハビリテーション専門職(PT・OT等)を対象に、いすと体の関係を考え直し、専門職として評価することの重要性について講義を受けました。

物を体に合わせるのではなく、まずは身体評価を行うことの必要性と身体に適合した車いすを選択し調整することの基本を紹介していただきました。

参加者の多くはモジュラー車いすに接する機会がなく、福祉用具の知識について今後でも啓発が必要だと感じました。

正しい座位は、負担を減らすだけでなく、体の機能を最大限に使うためにも大切なんですよね!



熱中症の予防はできていますか?

チェックしてみてください!

- こまめに水分をとっている。
- エアコン・扇風機を上手に使ってる。
- シャワーやタオルで体を冷やす。
- 部屋の温度を測っている。
- 暑いときは無理をしない。
- 涼しい服装をしている。
- 外出時には、日傘や帽子をかぶる。
- 部屋の風通しを良くしている。
- 緊急時・困ったときの連絡先がわかる。
- 涼しい場所や施設に行く。

復興に奮闘!

【公立志津川病院】

このコーナーは、被災してもなお、震災に負けずに奮闘している現状をシリーズでお伝えしていきます。

今回は、公立志津川病院の鈴木院長先生と星看護部長さんにお話を伺いました。

南三陸町は、隣接市の病院には車で1時間ほどかけなければならない地域で、「住民が安心して暮らすには、入院設備のある病院が必要だ。」と、鈴木先生は住民第一で被災後の医療体制を考えていらっしゃいました。

そのため現在は、公立南三陸診療所と公立志津川病院の2カ所での医療体制を余儀なくされ、「正直なところ、肉体的にも精神的にも限界。もう頑張れない。」と被災医療機関の窮状を話して頂きました。

それでも北海道・東北ブロックの大学病院から交代で来てくれる医師や、県との協定による医師の派遣を得て、なんとか運営しているとのことでした。

震災後はプレバブの診療所で夏の40℃、冬の-10℃という過酷な状況も経験したそうですが、10月までには新しい病院のマスタープランが作成されることで、復興への歩みを感じられました。

更に先生は、南三陸の星は美しく、この上ない資源だと話し、どんな優秀なセラピストよりも優しく癒してくれる星空を活かして、ホスピスと介護者用の住宅を整備する等、魅力ある医療を展開したいという想いも話してくださいました。



南三陸の星は美しく、この上ない資源だと話し、どんな優秀なセラピストよりも優しく癒してくれる星空

を活かして、ホスピスと介護者用の住宅を整備する等、魅力ある医療を展開したいという想いも話してくださいました。

食中毒予防キャンペーン



7月12日(木)にデリーポート新鮮館気仙沼店とイオン気仙沼店にて、食中毒予防キャンペーンとして、チラシ、うちわ、消毒液などの配布と併せて、食中毒に対する注意喚起を行いました。

夏場は細菌が増殖しやすく、食中毒の多発する時期です。

調理や食事の際には食中毒の原因となる菌やウイルスを「つけない」「ふやさない」「殺菌する」の食中毒予防3原則を心がけて、おいしく安全な食事をとれるようにしましょう。

薬物乱用防止ヤング街頭キャンペーン

7月20日(金)にイオン気仙沼店にて気仙沼向洋高等学校の生徒さんと一緒に薬物乱用防止ヤング街頭キャンペーンとして、「ダメ。ゼッタイ。」を合言葉にパンフレットの配布や募金活動を実施しました。



「一度だけなら」「自己責任で」と安易な考えで薬物に手を染めると、自分の意志ではやめることが難しくなり、自分だけでなく家族や友人も不幸にします。薬物乱用から自分自身を守るには、どんな人から誘われても「ダメ・ゼッタイ。」と断る勇気が必要です。

エコでイー行動!

水梨小学校で「みやぎe行動 (eco do!) 出前講座」

7月12日(木)、水梨小学校5年生の児童9名を対象に、節電を中心としたエコ活動の実践について、環境教育リーダーによる出前講座が行われました。



リーダーは冷蔵庫の保冷カーテンのことなど、質問を投げかけながら、わかりやすく説明してくださいました。



講義の終わりに、

「e行動宣言書」～自分にできることから始めましょう!～に示されたエコ活動の中から各自が今後取り組む行動を選んでチェックしました。

後日、参加者全員に認定書が配布されます。

ふかひれさんの

マニアック食中毒予防講座



～菌を知って効果的対策～

今回は、『腸炎ビブリオ』です!

分布: 腸炎ビブリオ (*vibrio parahaemolyticus*) は海水中に生息し、増殖するのに塩分 (NaCl) が必要です。特に海水温の高い夏場に注意が必要です。

原因食品: 近海産魚、イカ、タコなどの生鮮海産魚介類の刺身や寿司などの生食が原因となります。

中毒症状: 激しい腹痛と水溶状の下痢、37~38℃の発熱などがありますが、通常2~3日で回復します。

予防方法: この菌は真水に弱いので、海産魚介類は調理前に水道水で十分洗うことが大切です。また、熱に弱い菌なのでしっかりと加熱調理するようにしよう。

現在宮城県では7月2日から「魚介類による腸炎ビブリオ食中毒注意報」を発令しています。

編集後記

創刊にあたって、レイアウトを決めるときに、真っ先に浮かんだのが事務所の黄色いボールの枠組みでした。

気仙沼保健福祉事務所を知っている人にはイメージしてもらえそうです!

これから、管内の復興に頑張っている皆様の様子や気仙沼保健福祉事務所の活動などを伝えていきたいです。

